

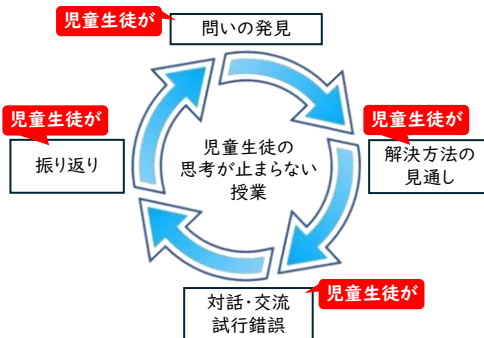
教師が「～させる」授業から、児童生徒が「～する」授業へ

児童生徒が主語となる授業デザイン

令和7年5月 東部教育事務所

私たち教師に必要なのは、児童生徒の力を信じ、教師が「～させる」授業から、児童生徒が「～する」授業へと、学びの転換を図ることです。児童生徒が主語となり、児童生徒の思考が止まらないような授業をデザインして、「自律した学習者」の育成を目指しましょう。

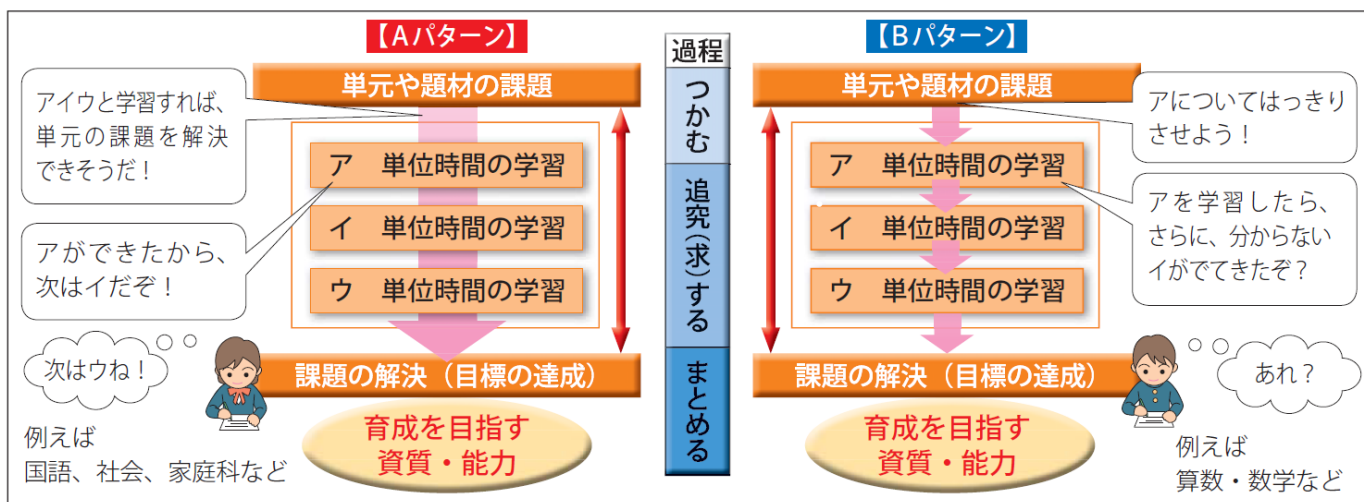
こちらも参考に→[児童生徒主体の授業改善資料](#)（東部教育事務所）



学びのストーリーを意識した単元・題材の構想

児童生徒が自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出せるよう、児童生徒が課題を設定し問題を解決するまでの学びのストーリーを意識して、各単位時間をつなげましょう。その際、自己決定、対話・交流、試行錯誤の場面を効果的に取り入れ、児童生徒が学びのストーリーを生み出したりつないだりできるようにしましょう。

《取り入れたい場面》

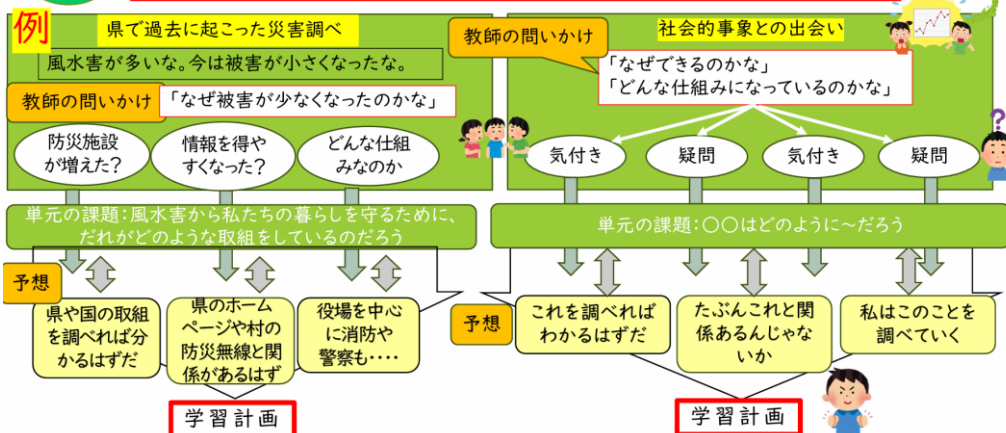


はばたく群馬の指導プランⅡより

自己決定

予想を基に、学習計画を立てる活動を充実させましょう

児童生徒の意識の流れに沿った問題解決的な学習、探究的な学習を重視しましょう。



令和6年度各教科等授業改善プロジェクト【社会】授業改善研修会資料より

授業の「ねらい」に迫るための環境の構成

児童生徒が「～する」授業を実現するためには、教師による直接的な働きかけ（問いかけ、ゆさぶり等）だけでなく、間接的な手立てである環境の構成（座席の配置、コーナーの設置、学習プリントの用意等）も大切です。授業の「ねらい」に迫るための環境の構成をするとともに、児童生徒の学習の様子を見取り、適切な働きかけを行って、各教科等で身に付けたい資質・能力を育成しましょう。

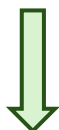
教師は伴走者として支援することが大切です。児童生徒を見守りつつ、適切な働きかけを行いましょう。



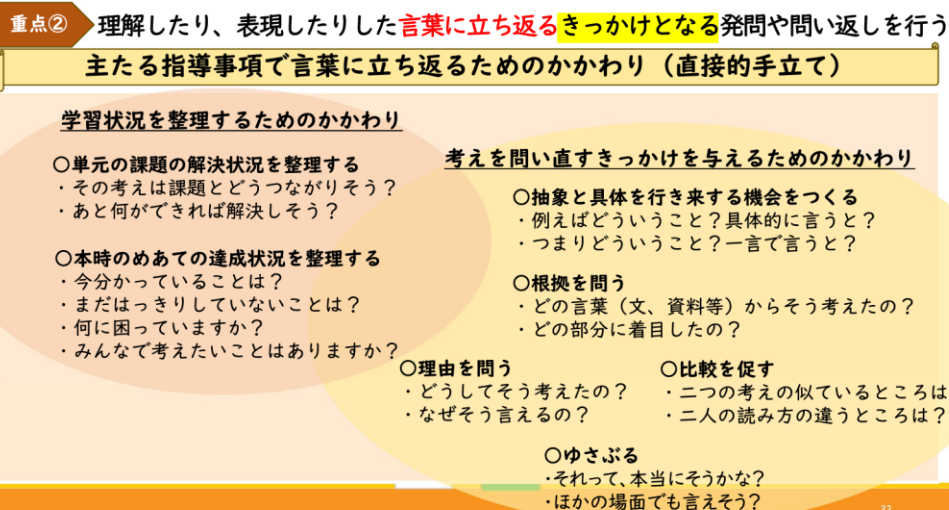
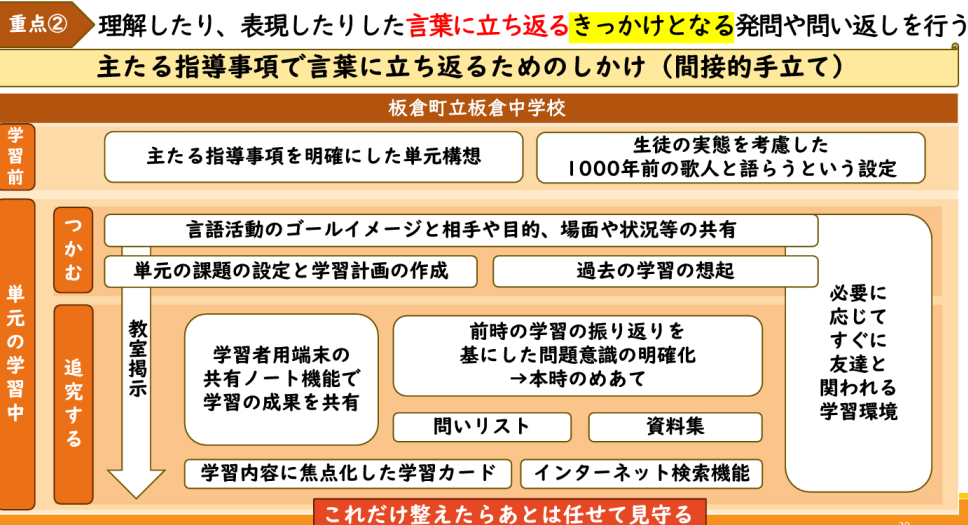
環境の構成



教師の働きかけ



資質・能力



令和6年度各教科等授業改善プロジェクト【国語】 授業改善研修会資料より

こちらも参考に→[令和5～7年度各教科等授業改善プロジェクト（群馬県教育委員会）](#)

授業の様子は、公開授業ハイライト動画を御覧ください。（配布済みリーフレットのリンクから御覧いただけます）

児童生徒の姿を基にした手立ての検証

教師の手立てが児童生徒にとって有効であったかを、児童生徒の具体的な姿から見取り、検証しましょう。

授業研究会では、PADカードを活用することで、児童生徒の姿を根拠に「児童生徒が授業の中でどのように変容したか」を共有し、「有効だった手立てや支援」「（有効でなかった場合には）どのような手立てや支援が必要か」について協議することができます。

P…Passive（受動）
A…Active（能動）
D…Deep（深い学び）

こちらも参考に→[PADカードを活用した授業研究会資料（東部教育事務所）](#)